

はじめに

平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領が、今年度から年次進行で実施されています。

今回の学習指導要領では、各教科などの目標や内容が、育成をめざすべき資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に添って再度整理され、各教科などでどのような資質・能力の育成をめざしていくのかが明確となりました。これにより、教える側である教師は「生徒たちにどのような力がついたか」という学習の成果を的確に捉えるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っていく、いわゆる「指導と評価の一体化」を進めることが求められています。本校においてもこの「指導と評価の一体化」の具体的な取り組みを始めているところです。

さて、本校はここまで ICT の利活用や少人数で行う授業の利点を活かした「わかった」「できた」を生徒に味わわせる指導の工夫を行いながら、「確かな学力」の育成に取り組んできました。こうして基礎学力の定着とともに基本的な生活習慣を確立させていくことによって生徒たちはより前向きな姿を見せるようになり、各種の検定試験に多くが挑戦するとともに自らの進路希望を実現していくようになりました。この「確かな学力」をつけさせるためにも、私たちは更なる指導力の向上をめざし自らの教育実践を振り返り、他から学ぶ姿勢を持ち続けることは不可欠であると考えます。

今回の研究紀要『本城』第 25 号は、本校の先生方がこの 3 年間（令和 2～令和 4 年度）に取り組んできた教育実践や研究の成果をまとめたものです。この冊子が、本校教育の一層の充実・発展につながることを切に願っています。

最後に、原稿執筆と編集に携わった先生方に心から謝意を表すとともに、多くの皆様からの御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和 5 年 1 月 26 日

鹿児島県立垂水高等学校
校 長 亀 田 誠